

<共通科目>

科目	臨床病態生理学		
時間数	30	講義27 演習2 試験1	
概要	1.臨床解剖学	人体の正常な構造と機能の正確な理解によって、人体の異常な状態、病気の成り立ちを認識することができ、その診断や治療法へとつながる。本講義では、全身の器官・臓器について個々の構造を学習し、なぜそのような構造をしているのかを、その器官・臓器の働きと関連づけて、人体を俯瞰して理解する。	
	2.臨床生理学	臨床解剖学で人体の形態と構造を学んだ後の学習のステップとして、臨床生理学でその役割と機能を学ぶ。本講義では、人体の生理学的な機能異常に基づく代表的な疾患を理解し、エビデンスに基づいた最善のケアを提供できるよう、生理機能評価の方法と実際に学ぶ。	
	3.臨床病理学	臨床病理学は、疾病の原因、病変の発現機序、それらの因果関係及び相互関係を考察し、正しい疾病観と疾患の具体的概念を学習し、理論と同時に臨床医学への基礎作りも兼ねるものである。本講義では、各器官・臓器ごとの疾病の定義と特徴および顕微鏡所見、病因論などを学ぶ。	
目標	①人体の正常な機能や構造、およびその破綻や調節機能異常に基づく症状やメカニズムを理解し、患者の身体を統合的に把握するための基本的な知識を身につける ②多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける		
講師	伊藤彰一（総合医療教育研修センター）		
	笠井 大（呼吸器内科）		
回数	学ぶべき事項	授業内容	方法
1	1.臨床解剖学	神経系	講義
2		循環系	講義
3		血液	講義
4		呼吸	講義
5		自律神経・内分泌	講義
6		運動系	講義
7		消化系	講義
8		生殖（臨床生理学も含む）	講義
9		細胞・遺伝子	講義
10		泌尿器系	講義
11		免疫	講義
12	2.臨床生理学	神経系	講義
13		循環系	講義
14		呼吸	講義
15		自律神経・内分泌（臨床生理学も含む）	講義
16		運動系	講義
17		泌尿器系	講義
18		皮膚・感覚器系（1）	講義
19		皮膚・感覚器系（2）	講義

20	3.臨床病理学	神経系	講義
21		循環系	講義
22		血液	講義
23		呼吸	講義
24		消化系	講義
25		感染	講義
26		免疫	講義
27		がん	講義
28	4. 臨床病態 生理学	エネルギー	演習
29		炎症	演習
30	科目修了試験（筆記試験）		試験
評価	講義	全講義受講 及び 確認テスト 得点率100%	
	演習	レポート 80%以上	
	試験	筆記試験 得点率90%以上	

科目	臨床推論		
時間数	45	講義35 演習8 実習1 試験1	
概要	1.診療のプロセス	患者の症候からその病態を推理する診療のプロセスとして症候診断の基本的な考え方を学ぶ。	
	2.臨床推論（症候	患者が訴える症候から疾患群を想起し、何が最も疑わしいかについて一定の様式で臨床推論	
	3.医療面接の理論と演習・実習	医療は患者との間の良好な信頼関係の形成から始まるものであり、良好な人間関係の構築と病歴の聴取及び身体所見の適格な取得には、一定の水準に達した診察技量が必要である。信頼関係の形成の基礎となる医療面接についての知識およびコミュニケーション技法を身に付け実践する。	
	4.各種臨床検査の理論と演習	日常頻繁に使用されている臨床検査項目について、検体採取から臨床的意義並びに検査値の基本的な考え方など、臨床検査を中心とする一連の診断プロセスと病態との関係を総合的に学習する。	
	5.画像検査の理論と演習	X線写真、CT、MR、超音波断層、核医学検査等の各種検査の臨床的意義、使用する装置の特性、そして実際の検査方法から結果の判読・評価に至るまで、基礎的な知識から臨床の場に即した検査結果と病態との関連について体系的に学ぶ。	
	6.臨床疫学の理論と演習	客観的な疫学観察や統計学による治療結果の比較に根拠を求めながら、実地診療における臨床判断をエビデンスに基づいて実施するために臨床疫学の理論および手法論を学習する。	
目標	①多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するための臨床推論および医療面接の知識と実践能力を身につける ②多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける ③患者の診療に必要な情報源（医療面接、各種臨床検査、画像検査、臨床疫学など）を理解し、患者の意向や生活の質に配慮しつつ、患者の病態に基づいたケアが提案できる		
講師	伊藤彰一（総合医療教育研修センター）		
	笠井 大（呼吸器内科）		
回数	学ぶべき事項	授業内容	方法
1	1. 診療のプロセス	症候診断の基本的な考え方	講義
2		医学的診断の方法	講義
3	2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習	症候論（1）頭痛	講義
4		症候論（2）めまい	講義
5		症候論（3）失神	講義
6		症候論（4）意識障害	講義
7		症候論（5）しびれ	講義
8		症候論（6）胸痛	講義
9		症候論（7）動悸	講義
10		症候論（8）呼吸困難	講義
11		症候論（9）腹痛	講義
12		症候論（10）嘔気	講義
13		症候論（11）腰背部痛	講義
14		症候論（12）関節痛	講義
15		症候論（13）風邪	講義
16		症候論（14）全身倦怠	講義
17		ケーススタディ（1）	演習
18		ケーススタディ（2）	演習
19		ケーススタディ（3）	演習

20	3.医療面接の理論と演習	コミュニケーション技法（1）	講義
21		コミュニケーション技法（2）	講義
22		医療（看護）面接（1）	演習
23		医療（看護）面接（2）	演習
24	4.各種臨床検査の理論と演習	心電図（1）	講義
25		心電図（2）	講義
26		血液検査	講義
27		尿検査	講義
28		病理検査	講義
29		微生物学検査	講義
30		生理機能検査	講義
31		その他の検査	講義
32		各種臨床検査の演習	演習
33	5.画像検査の理論と演習	放射線の影響（1）	講義
34		放射線の影響（2）	講義
35		単純エックス線検査／CT その他の画像検査	講義
36		超音波検査・MRI・核医学検査	講義
37		CT/その他の画像検査	講義
38		画像検査の演習	演習
39	6.臨床疫学の理論と演習	診断・検査の基本	講義
40		研究デザイン	講義
41		診断のEBM	講義
42		診療ガイドラインの読み方・使い方	講義
43		臨床疫学の演習	演習
44	臨床推論の実際		実習
45	科目修了試験(筆記試験)		試験
評価	講義	全講義受講 及び 確認テスト 得点率100%	
	演習	レポート 80%以上／自己評価	
	実習	自己評価	
	試験	筆記試験 得点率90%以上	

科目	フィジカルアセスメント		
時間数	45	講義39 演習 5 実習 試験1	
概要	高度な看護実践を行うために、必要な情報を収集する身体面の観察技術(面接、視診、触診、打診、聴診、測定)を習得し、経緯や自覚症状などと照らし合わせながら問診を行い、観察した結果から対象の健康状態を評価するまでの過程を学習する。また、小児・高齢者など身体診察の年齢により変化をとまなうフィジカルアセスメントの知識、救急及び在宅医療の状況に応じた身体診察技術を修得する。		
目標	①多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するための臨床推論および医療面接の知識と実践能力を身につける ②多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける ③患者の診療に必要な情報源（医療面接、各種臨床検査、画像検査、臨床疫学など）を理解し、患者の意向や生活の質に配慮しつつ、患者の病態に基づいたケアが提案できる		
講師	伊藤彰一（総合医療教育研修センター）		
	笠井 大（呼吸器内科）		
回数	学ぶべき事項	授業内容	方法
1	1.身体診察基本手技の理論	身体診察と問診	講義
2		身体診察と診断推論	講義
3		エビデンスに基づく身体診察	講義
4	2.部位別身体診察手技と所見の理論	全身状態とバイタルサイン	講義
5		頭頸部	講義
6		胸部	講義
7		四肢・脊柱	講義
8		泌尿・生殖器	講義
9		乳房・リンパ節系	講義
10		神経系	講義
11		胸部：心血管	講義
12		胸部：呼吸	講義
13		四肢・脊柱：骨格筋	講義
14		腹部	講義
15		摂食・嚥下障害	講義
16		悪心・嘔吐	講義
17		発熱	講義
18		呼吸障害（1）	講義
19		呼吸障害（2）	講義
20		ショック	講義
21		がん	講義
22		浮腫・脱水	講義
23		意識障害	講義
24		高次機能障害	講義
25		運動障害	講義
26		痛みの診療	講義
27		頭痛・癌性疼痛等	講義

28	3.身体診察の年齢による変化	小児(1)	講義
29		小児(2)	講義
30		小児(3)	講義
31		高齢者(1)	講義
32		高齢者(2)	講義
33		高齢者(3)	講義
34	4.状況に応じた身体診察	救急医療 (1)	講義
35		救急医療 (2)	講義
36		救急医療 (3)	講義
37		在宅医療 (1)	講義
38		在宅医療 (2)	講義
39		在宅医療 (3)	講義
40	5. 身体診察の基本 手技・部位別身体診察の手技と所見	全身状態・緊急度の評価	演習
41		問診	演習
42		フィジカルアセスメント	演習
43		適切な問診・意識の評価	演習
44		腹部・胸部のアセスメント	演習
45	問診・フィジカルアセスメントの実際		実習
46	科目修了試験(筆記試験)		試験
評価	講義	全講義受講 及び 確認テスト 得点率100%	
	演習	レポート 80%以上／自己評価	
	実習	自己評価	
	試験	筆記試験 得点率90%以上	

科目	臨床薬理学		
時間数	45	講義35 演習 9 試験1	
概要	薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬効、作用機構、副作用、リスクマネジメント等、臨床における薬物の理論と実際について学習する。また、小児、女性、高齢者等、年齢による特性・個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学ぶ。		
目標	①多様な臨床場面において必要な治療を理解し、患者の安心に配慮しつつ、ケアや特定行為を安全に実践する能力を身につける ②主要な疾患別の治療薬および予防薬の作用機序、体内動態、薬理作用、副作用、相互作用、投与方法、投与後のモニタリングについての基本的な知識を身につける ③薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、安全な管理と処方の理論を理解できる		
講師	伊藤彰一（総合医療教育研修センター）		
	笠井 大（呼吸器内科）		
回数	学ぶべき事項	授業内容	方法
1	1.薬物動態の理論と演習	薬剤学の基礎知識（1）	講義
2		薬剤学の基礎知識（2）	講義
3		薬理学の基礎知識（1）	講義
4		薬理学の基礎知識（2）	講義
5		薬物動態の演習	演習
6	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習／3.主要薬物の相互作用の理論と演習	精神神経系（1）統合失調症	講義
7		精神神経系（2）双極性障害	講義
8		精神神経系（3）認知症・パーキンソン病	講義
9		精神神経系（4）てんかん・睡眠障害	講義
10		精神神経系	演習
11		心・血管系（1）心不全	講義
12		心・血管系（2）不整脈	講義
13		心・血管系（3）冠動脈疾患	講義
14		心・血管系（4）高血圧	講義
15		心・血管系	演習
16		呼吸器系（1）気管支喘息治療薬①	講義
17		呼吸器系（2）気管支喘息治療薬②	講義
18		呼吸器系（3）慢性閉塞性肺疾患（COPD）治療薬	講義
19		呼吸器系（4）咳嗽に使用される薬剤	講義
20		呼吸器系	演習
21		消化器系（1）上部消化器疾患	講義
22		消化器系（2）炎症性腸疾患	講義
23		消化器系（3）ウイルス性肝炎	講義
24		消化器系（4）膵炎	講義
25		消化器系	演習
26		内分泌・代謝系（1）経口薬療法	講義
27		内分泌・代謝系（2）注射薬療法	講義
28		内分泌・代謝系（3）脂質異常症の薬物療法	講義
29		内分泌・代謝系	演習

30		骨・関節系（１）関節リウマチ	講義
31		骨・関節系（２）骨粗鬆症	講義
32		腎・泌尿器系（１）排尿障害	講義
33		腎・泌尿器系（２）慢性腎不全	講義
34		骨・関節系／腎・泌尿器系	演習
35		抗がん薬（１）	講義
36		抗がん薬（２）	講義
37		抗菌薬（１）	講義
38		抗菌薬（２）	講義
39		抗がん薬／抗菌薬	演習
40	4.主要薬物の安全管理と処方 の理論と演習	医療安全（１）エラー事例から学ぶ	講義
41		医療安全（２）エラー再発防止への取り組み	講義
42		高リスク患者（１）妊婦と授乳婦	講義
43		高リスク患者（２）小児と高齢患者、代謝・排泄臓器機能の障害患者	講義
44		主要薬物の安全管理と処方の演習	演習
55	科目修了試験(筆記試験)		試験
評価	講義	全講義受講 及び 確認テスト 得点率100%	
	演習	レポート 80%以上	
	試験	筆記試験 得点率90%以上	

科目	疾病・臨床病態概論		
時間数	40	講義34 演習4 試験 2	
概要	循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患等、プライマリ・ケアの場において遭遇することの多い主要な疾患・症状に対しての、病態生理、臨床像、治療について基本的知識を学ぶ。救急患者への対応や重症化予防の重要性を理解し、臨床診断・治療の特性に応じた治療を実践するための知識と考え方を学ぶ。在宅医療において主要な病状の病態生理に基づいて、基本的な診察面接・身体診察・救急蘇生（Basic Life Support）の実際を学ぶ。		
目標	①主要疾患の病態生理、臨床像、診断、治療を理解する ②年齢（小児、高齢者など）や状況（救急医療、在宅医療など）に応じた臨床診断・治療の特性を理解する ③多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける		
講師	伊藤彰一（総合医療教育研修センター センター長）		
	笠井 大（呼吸器内科）		
回数	学ぶべき事項	授業内容	方法
1	1.主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	循環器系（1）	講義
2		循環器系（2）	講義
3		呼吸器系（1）	講義
4		呼吸器系（2）	講義
5		消化器系（1）	講義
6		消化器系（2）	講義
7		腎泌尿器系	講義
8		内分泌・代謝系	講義
9		免疫・膠原病系	講義
10		血液・リンパ系	講義
11		神経系	講義
12		小児科	講義
13		産婦人科	講義
14		精神系	講義
15		運動器系	講義
16		感覚器系（1）	講義
17		感覚器系（2）	講義
18		感染症（1）	講義
19		感染症（2）	講義
20		悪性腫瘍（1）	講義
21		悪性腫瘍（2）	講義
22		脳血管障害	講義
23		急性心筋梗塞	講義
24		糖尿病	講義
25		敗血症	講義
26		認知症	講義
27		熱中症	講義

28		主要疾患の病態と臨床診断・治療の演習（1）	演習
29		主要疾患の病態と臨床診断・治療の演習（2）	演習
30	科目修了試験(筆記試験)		試験
31	2.救急医療の臨床診断・治療の特性	特性(1)	講義
32		特性(2)	講義
33		特性(3)	講義
34		救急医療の臨床診断・治療の演習	演習
35	3.在宅医療の臨床診断・治療の特性	特性(1)	講義
36		特性(2)	講義
37		特性(3)	講義
38		特性(4)	講義
39		在宅医療の臨床診断・治療の演習	演習
40	科目修了試験(筆記試験)		試験
評価	講義	全講義受講 及び 確認テスト 得点率100%	
	演習	レポート 80%以上／自己評価	
	試験	筆記試験 得点率90%以上	

科目	医療安全学/特定行為実践				
時間数	45	講義22 演習・実習22 試験1			
概要	1. 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ 医療内容の複雑化、高度化、社会構造の変化、国際化などにより、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。本講義では、特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全そしてケアの質保証の知識を理解し事例検討及びグループディスカッションを通して、医療安全の理解・実践に多面的にアプローチする。				
	2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（Inter Professional Work（IPW））（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ。 チーム医療の理念と専門的サービスを提供する職種間の連携のあり方について学び、チーム医療の実際と今後チーム医療の中心としての特定行為研修を修了した看護師が担うべき役割について学習する。				
	3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ。 特定行為に係る看護師の研修制度創設の背景と経緯、制度の概要から、医師法、保健師助産師看護師法、特定行為に係る看護師の研修制度の関連法規等を学ぶ。また、特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論を学ぶ。				
	4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ。医師、歯科医師が看護師に特定行為を行わせるための「患者の病状の範囲」「診療の補助の内容」の指示として作成する文書である手順書の位置づけを学び、手順書の作成演習、使用する手順書の妥当性の検討及び手順書の見直し等評価と改良の手法を学ぶ。				
目標	①医療安全の原理・原則を理解し、多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するための能力を身につける ②医療安全に関わる法、倫理、制度、システムを理解する ③患者および医療従事者にとって安全な医療の遂行に向けて、多職種と効果的に協働する能力を身につける ④医療事故事例を分析し、医療事故防止および事故後の対処ができる ⑤問題解決に向けて多職種と効果的に協働する知識と実践能力を身につける ⑥医療者、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる ⑦多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するためのアセスメント、仮説検証、意思決定の知識と実践能力を身につける ⑧根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直す知識と実践能力を身につける ⑨自らの看護実践を見直しつつ、標準化する能力を身につける				
	学ぶべき事項		授業内容	方法	時間
1. 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ					
1	1.医療倫理	医療倫理・生命倫理の原則		講義	1
2		特定行為と患者の権利・医療安全		講義	1
3	2.医療管理	特定行為における医療マネジメント		講義	1
4		リスクマネジメントと法規制		講義	1
5	3.医療安全	特定行為における組織と医療安全		講義	1
6		特定行為における個人と医療安全		講義	1
7		特定行為における患者・家族と医療安全		講義	1
8		医療安全		実習	2
9	4.ケアの質保証	特定行為におけるケアの質保証～医療安全との関連		講義	1
10		特定行為におけるケアの質保証～医療訴訟との関連		講義	1
11		特定行為におけるケアの質保証～ケアと医行為との関連		講義	1
12		法的側面とケアの質保証に関する判例を分析する		演習	2
2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（IPW）（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ					
13	5.チーム医療	チーム医療を実践するために知っておくべきこと		講義	1
14		チーム医療に必要な医療者同士のコミュニケーション		演習	1
15		チームとしての最大を発揮する		講義	1
16		チームとしての最大を発揮する		演習	1
17	6.コンサルテーション	どんな情報を伝え、何を求めるか		講義	1
18	7.多職種協働の課題	多職種との円滑な協働のためのマネジメント		講義	1
19	チーム医療演習	チーム医療（他職種との協働）の事例検討		演習	2
3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ					
20	8.関連法規	看護師特定行為研修の実際・モデルチェンジ		講義	1
21	9.特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習	特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論		講義	1
22		特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の演習		演習	2
4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ					
23	手順書の位置づけ			講義	1
24	手順書の作成			演習	2
	手順書の評価			講義	1
25	手順書の作成・評価・改良			実習	2
5. 特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ					
26	特定行為実践に必要な知識・技能・態度			講義	1
27	②特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ	特定行為の実践の構造（1）		講義	1
28		特定行為の実践の構造（2）		講義	1
29	特定行為実践のアウトカム			講義	1
30	特定行為実践のアウトカム			演習	1
31	④特定行為の実践	看護師の特定行為の実践の意義 組織に求められる役割と自身の立場から考える1）		演習/実習	4
32		看護師の特定行為の実践の意義 組織に求められる役割と自身の立場から考える2）		演習/実習	4
33	科目修了試験(筆記試験)			試験	1
評価	講義	全講義受講 及び 確認テスト 得点率100%			
	演習	レポート 80%以上／自己評価			
	実習	自己評価			
	試験	筆記試験 得点率90%以上			

③特定行為実践のアウトカム

④特定行為の実践

特定行為実践課程の演習（1）	
特定行為実践課程の演習（2）	
特定行為研修修了後の実践成果の検討	
特定行為実践のアウトカムの演習（1）	
特定行為実践のアウトカムの演習（2）	
特定行為の実践の実習（1）	
特定行為の実践の実習（2）	
特定行為の実践の演習（実習の振り返り）（1）	
特定行為の実践の演習（実習の振り返り）（2）	